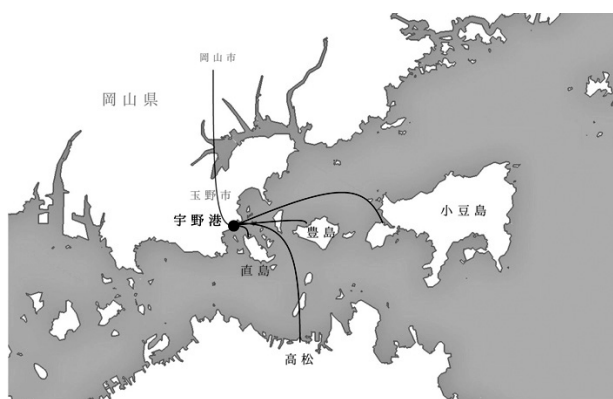


—中国港湾空港—

宇野港を舞台とした玉野の賑わいづくり ～UNOICHI 海が見える港のマルシェ～

1. はじめに

宇野港は、岡山県玉野市の南部に位置し、周囲を瀬戸内海の島々に囲まれた波静かな天然の良港で、明治43年に本州と四国を結ぶ宇高連絡船航路が開設されて以来、“海の玄関口”として重要な役割を果たしてきた。



瀬戸内海の玄関口「宇野港」

昭和63年の瀬戸大橋開通後は、宇高連絡船の廃止など海上交通体系の再編を余儀なくされたが、平成18年に水深10mの大型客船バースが供用されて以降は、観光・人流港としての役割を担っている。

平成20年5月には宇野地区一帯が「みなとオアシス」の登録をうけ、住民参加型のみなとまちづくりにも積極的に取り組んでおり、近年は外航クルーズ客船の誘致にも力を入れるなど、客船が入港する際には乗客、乗員、一般市民を対象としたおもてなしイベントも開催されている。

このたび、宇野港第一突堤をメインステージに、季節毎にマルシェイベント等を開催し、地域の賑わい創出活動を行っている、特定非営利活動法人UNOICHI実行委員会が「手づくり郷土賞」を受賞したので、活動状況を紹介する。



クルーズ船おもてなしイベント

2. 活動状況～UNOICHI実行委員会～

平成25年に立ち上げたUNOICHI実行委員会は、多くの地元高校生が企画段階から当日の運営までスタッフとして参画し、若者の感性により工夫を凝らし、宇野港や瀬戸内海が持つ魅力を世界に発信し、観光振興や移住促進を目標に活動している。



港湾緑地でのマルシェイベント

主催するマルシェイベントでは、玉野市だけでなく、岡山県内や瀬戸内の島々にある個性溢れるお店に出店を依頼し、瀬戸内ならではのおいしい食べ物や飲み物、スイーツ、本やグッズが集まり、ものづくり体験ワークショップや音楽の生演奏なども楽しめるなど、港ならではの繋がり、海を眺めながらゆったりと過ごしていただく空間を提供している。高校生や大学生は、“海をもっと身近に感じてもらいた

い！”を合言葉にそれぞれの専門分野の枠を越えて、企画立案を大人と一緒にやっている。

これらの活動を通して、多くの方々に宇野港に関心を持っていただき、来場者の増加等、港を中心とした地域の賑わい創出に繋げることができたことで、平成29年には、港を中心とした集客の向上に大いに貢献している点が評価され、日本港湾協会企画賞を受賞した。



フェリーを使った海の上のマルシェ

3. おわりに～手づくり^{ふるさと}郷土賞の受賞～

今回、社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組を表彰する「手づくり^{ふるさと}郷土賞」にUNOICHI実行委員会が選ばれ、平成31年2月6日に玉野市で行われた認定証の授与式では、小倉理史理事長と運営に関わる玉野高校の生徒5名に認定証と盾が贈られた。



認定証を受け取る UNOICHI 実行委員会の皆さん

来賓で参加した黒田晋玉野市長から、「高校生の皆さんが企画段階から参画し、イベントを作り上げている点が素晴らしい」と祝辞をいただき、受賞者を代表して小倉理史理事長は、「瀬戸内海は素晴らしいと世界に伝えていけるよう、これからも若い人たちを育てていける団体として頑張りたい」と決意を表明した。また、実行委員会で高校生リーダーを務める玉野高校2年の森下加奈己さんは、スライドを使用して活動内容を分かりやすく紹介し、「学校では経験できないことをたくさん学んでいる」と話した。



活動内容を介绍する森下さん

平成30年には大学生を中心にUNOICHI TOKYO チームが発足するなど活動に広がりを見せるも、プラスチックごみの削減等による海洋環境保全を目的とした「SOS (Save Our Sea) プロジェクト」を開始するなど、今後も地域資源と若者をつなぐ様々な活動を続けていくUNOICHIの取り組みに注目が集まっている。

【手づくり^{ふるさと}郷土賞】

地域の個性・魅力を創出し、良質な社会資本及びそれと関わりをもつ優れた地域活動を広く募集・発掘し、これらを全国で紹介することにより、個性あふれ活力ある郷土づくりに資することを目的として、昭和61年度に創設された国土交通大臣が表彰する制度で、今回が33回目となる。岡山県では、これまで8市2町の計29件が受賞しており、玉野市の受賞は今回が初めてとなる。

(国土交通省 中国地方整備局 宇野港湾事務所)